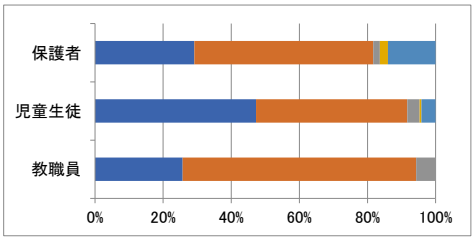
令和７年度　学　校　評　価

そう思う　どちらかといえば、そう思う　どちらかといえば、そう思わない　そう思わない　わからない

（１）主体的に考え行動する力を育む教育の推進

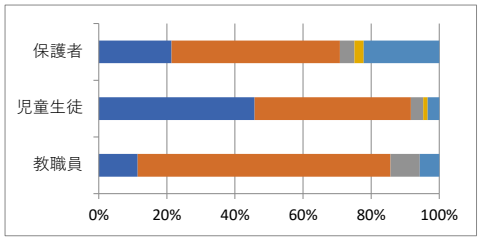
１豊かな心と健やかな体を育む教育の推進

学校は、豊かな心と健やかな体を育む教育の充実に努めていると思いますか。（感動・感謝、郷土愛、いのちを大切にする心、こどもの体力向上、基本的な生活習慣など）



２自ら学びに向かう力を育む教育の推進

学校は、こどもが自分で考え、自分から取り組む授業づくりに取り組んでいると思いますか。



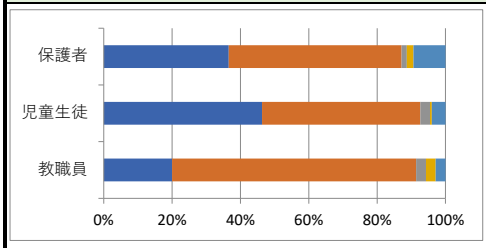
考察

１「豊かな心と健やかな体を育む教育の推進」
「そう思う」「どちらかといえばそう思う」との肯定的な回答をしている割合は生徒自身や教職員が9割強であるのに対し、保護者の回答は7割であった。学校での取り組みの周知等の工夫が必要である。
２　「自ら学びに向かう力を育む教育の推進」
教職員よりも生徒自身の方が「そう思う」の割合が2倍以上で、主体的に取り組むことができている、と実感しているようである。保護者もそう感じられるような仕掛けが今後必要である。

（１）主体的に考え行動する力を育む教育の推進

３社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育の推進

学校は、学校生活や地域社会をよりよくするために考えたり、行動したりするこどもの育成に、取り組んでいると思いますか。（児童会・生徒会活動、学校のきまり見直し、地域のよさを伝えたり課題解決したりする取組、ナイストライ（中学校）など）

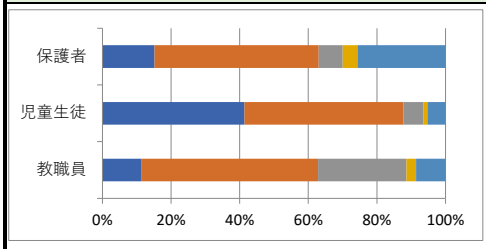


３「社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育の推進」
保護者や教職員、生徒は「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と肯定的な回答をしている割合が８割以上になっている。生徒自身は「そう思う」と答えた生徒が５割にせまる程度おり、社会に持続的に関わろうとする主体的な態度が見られている。今後も、本校で行っている取り組みを通して、生徒自身の成就感を高めたい。

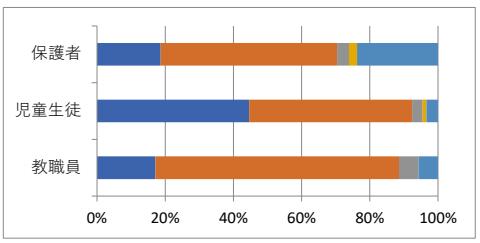
（２）こども一人一人を尊重した教育の推進

４５個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

学校は、こどもが、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学ぶ授業づくりを行っていると思いますか。



学校は、こどもが、対話などを通して、他の人の考えや意見を自分の学びに生かすような授業ができていると思いますか。

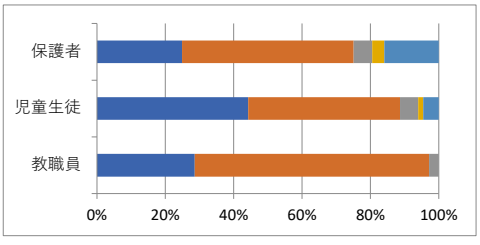


４５「個別最適な学びと協同的な学びの一体的な充実」
「こどもが自ら学ぶ授業つくり」ついては、生徒の肯定的な回答が９割近くに達したのに対し、教職員は肯定的な回答が６割程度で「まだ十分でない」との思いをもっている。また、対話的な学びに関しては、９割の生徒や教職員が肯定的な回答をしており、令和の学びが着実に根付いていると考えられる。
ただし、保護者への理解が十分ではない結果が出ているので、今後、授業参観等を通じて、理解が深まるような工夫が必要である。

（２）こども一人一人を尊重した教育の推進

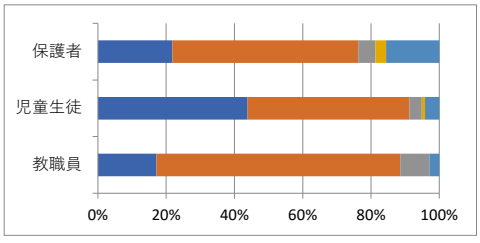
６特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実

学校には、こどもが助けを必要とするときに、先生や友達から支えてもらえる温かな雰囲気があると思いますか。



７インクルーシブ教育の推進

学校では、こどもがそれぞれの違いを認め、お互いを尊重し合って共に学び合っていると思いますか。

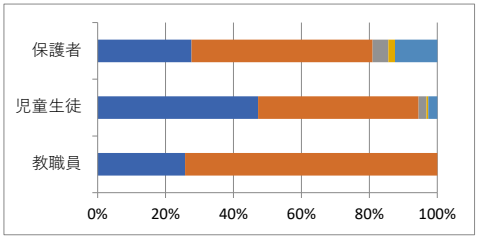


６「特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実」
生徒、教職員とも９割が肯定的な回答をしているが、３割弱の保護者は、まだ十分ではないと考えている。校内での取組等、積極的に啓発していきたい。
７「インクルーシブ教育の推進」
９割以上の生徒、教職員は互いを認め合うことができているとの感じているが、１割の保護者は十分ではないと回答しており、1割の保護者「わからない」と解答している。こちらも、協同的な学びの取組の周知等していく必要がある。

（３）最適な教育環境の整備

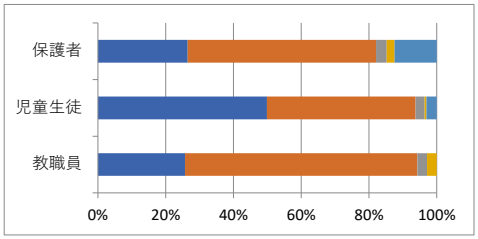
８ 安全・安心な園づくりの推進

学校は、こどもの安全を守る環境の整備を進めるとともに、安全教育（生活・交通・防災など）に取り組んでいると思いますか。



９ 地域や家庭と連携した教育環境の整備

学校は、地域や家庭の人と協力して、授業や行事などの教育活動を進めていると思いますか。

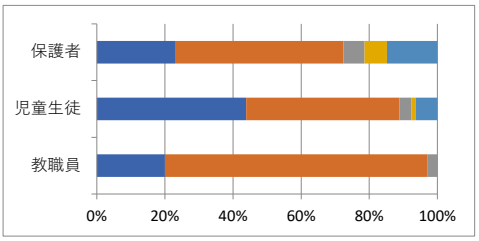


８「安全・安心な園づくりの推進」
　９割強の生徒、ほぼ全員の教職員は安全教育に取り組んでいると肯定的な回答をしている。今後も月１回の安全点検を含め、定期的な避難訓練を計画することで、生活にも役立つ安全教育の実施を行っていく。
９「地域や家庭と連携した教育環境の整備」
　「地域や家庭との連携はできている」との肯定的な意見が、生徒・教職員では大多数を占めている。ただし、保護者では７割を超える程度となっている。今後も学級だよりや学校ホームページ、「すぐーる」等を利用して周知や協力依頼等を積極的に行っていくようにしたい。

（４）こどものいのちと権利の擁護

１０ こどもの最善の利益を守る環境づくり

学校は、こどもの意見を反映させ、こどもの権利を守るとともに、こどもや保護者が相談しやすい学校づくりに取り組んでいると思いますか。

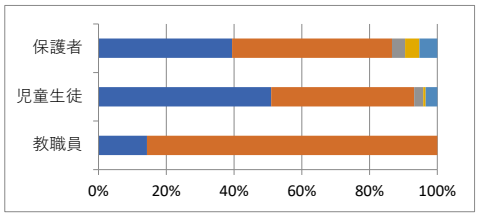


１０「こどもの最善の利益を守る環境づくり」
　「そう思う」「どちらかといえばそう思う」との肯定的な回答が保護者と生徒、教職員でやや差がある。定期的は教育相談やSC等の活用を促す取り組みをしてきたが、より一層の周知の工夫をしていく必要がある。
　また、「校則の見直し」等で、生徒たちの意見を反映しながら生徒会を中心に行っているが、保護者へは十分に伝わっていない。さらなる周知の工夫、例えば授業参観等で生徒会から周知する等取り組み方を工夫をしていく必要がある。

独自項目

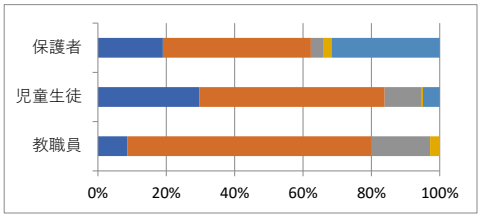
１１　生徒たちは、楽しく学校生活を送ることができていると思いますか。

生徒たちは、楽しく学校生活を送ることができていると思いますか。



１２　生徒たちは、「あ・そ・ふ・じ・へ」を守って行動していると思いますか。

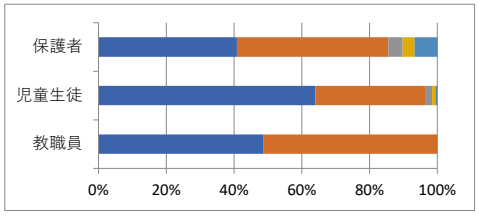
生徒たちは、「あ・そ・ふ・じ・へ」を守って行動していると思いますか。



「学校生活は楽しいか」に肯定的に「そう思う」と回答した生徒が９３％（前年度は９２％）いた。大多数の生徒が良好な学校生活を送っていると思われる。「あそふじへ」を意識して行動していると肯定的に回答した生徒は８３％であり、前年度よりも４％ほど下がっている。自分自身のこともしっかり振り返ることができ、充実した毎日を送っていることがわかる。今後もこの思いを大切にしていきたい。

１３　生徒たちは、行事をとおして、支え合うことの大切さを感じることができたと思いますか。

生徒たちは、帯中三大行事（体育大会・白亜祭・強歩会）等をとおして、充実感を味わい、助け合い、支え合うことの大切さを感じることができたと思いますか。



生徒の９６％、教職員の１００％、そして保護者の８５％が肯定的に行事を通して達成感を味わい、成長したと実感している。しかし１０％ほどの保護者の中には、少数ではあるが、「そう思わない」「わからない」等の回答があることから、本校がこれまで大切にしてきた行事の意義を伝え、今の働き方改革も含めた持続可能な取り組みのあり方を検討しながら、充実感や行事を通しての成長を皆が感じられるように発信していく必要があると考える。

来　年　度　の　具　体　的　な　取　組　に　つ　い　て

〇学校での取組が保護者に十分伝わっていない状況を踏まえ、学校だよりやホームページ、保護者会等を通じて教育活動の見える化を図る。また、道徳教育や体力向上の取組を積極的に発信し、家庭と連携した実践を推進する。生徒が主体的に学んでいる実感を保護者とも共有できるよう、授業公開や学習成果の発表の場を充実させる。
〇ICTの活用や個に応じた学習支援を充実させるとともに、対話的・協働的な学びを一層推進する。授業参観や公開授業を通して保護者の理解を深め、「令和の学び」の共有を図る。
〇特別支援教育の体制や具体的支援内容について、保護者への周知と理解促進を図る。校内研修の充実により教職員の専門性を高め、関係機関とも連携した支援体制を整備する。互いを認め合う学級・学校づくりを継続し、協働的な学びや交流活動の充実を図る。取組の様子を保護者へ積極的に発信し、インクルーシブ教育への理解を深める。
〇学級だより、学校ホームページ、連絡アプリ等を活用し、学校の取組や協力依頼を積極的に発信する。教育相談やスクールカウンセラー活用の周知をさらに進め、相談しやすい環境づくりを推進する。校則見直しや生徒会活動の取組を保護者にも分かりやすく伝え、生徒の意見が反映される学校づくりへの理解を深める。

小　中　学　校　関　係　者　評　価

　学校と学校評議員による関係者評価では、多くの項目において生徒・教職員は高い肯定的評価を示し、学校の教育活動は概ね順調に進んでいることが確認された。一方で、保護者の評価はやや低く、学校の取組が十分に伝わっていないことが課題として明らかとなった。
　特に、主体的な学びや特別支援教育、インクルーシブ教育、生徒会を中心とした校則見直し等の取組について、理解や実感に差が見られる。今後は授業参観や学校だより、ホームページ、連絡アプリ等を活用し、教育活動の可視化と丁寧な周知を図るとともに、地域や家庭と連携した教育環境の充実を進める必要がある。生徒が達成感や自己有用感を実感できる活動を充実させ、信頼される学校づくりを一層推進していく。